

〈研究ノート〉

## 服飾工芸分野の授業改善についての一考察

——ビーズワーク名称の整理から情報機器活用試案まで——

高橋 良子\*

A study on Improving Tuition in the Field of Apparel Arts.

——From arranging a name for beaded work to a tentative plan to use  
information technology——

Yoshiko Takahashi

**要 旨** 高等教育機関における服飾工芸分野での情報機器を活用した授業改善について模索し、今後の授業展開方法について考察する。今回は、ビーズ刺繍図案デザインや、装身具といったビーズワークについて (1) 技術習得のためのテクニック名称・語句・表記記号や図解についての現状調査と考察 (2) 技術習得補助のための情報機器導入に関する提案と考察 (3) 感性教育の立場からみた服飾工芸分野の今後について、以上の3点を中心に研究ノートにまとめる。研究対象は、本学、短期大学部服装学科専攻科被服専攻の「ファッションクラフト」におけるネックレスなどの装身具製作やブライトワークに焦点を絞る。ビーズ刺繍図案デザイン発想や、アクセサリ製作のための補助機器として、汎用ソフトのPhotoshopやIllustratorの活用方法を考案し、試作であるが、平成22年後期授業で実際にデザイン実習、製作手順考案等について授業展開を行い学生の支持を得た。また、現状調査では、本学服飾博物館所蔵のビーズワークテクニックの確認、ビーズショーの現状、質問紙調査など、多方面から考察する中間報告である。

キーワード ビーズ (Beaded) 情報機器 (Information Technology) 技術名称 (Technique name)

### I. はじめに

高等教育機関における情報機器を導入した授業改善等については、様々な試みが行われ教材資料についても研究が進み、成果を上げている。しかし、一般に手芸といわれる服飾工芸分野は科目の性格上、参考作品写真や技術指導のためのDVDの視聴、教材提示装置を用いた授業等に活用される程度で、積極的な情報機器の活用例はみられない。

技術習得のための技術教本については雑誌を含め多数出版されており、製作技術に関する情報はインターネットでも数限りなく検索できる。しかし、国際標準記号ISOやJIS(日本工業規格)の定めた用語や記号は、服飾工芸に関

するものは少ない。そのため技術教本などに記載された解説やテクニック名称、語句、表記は実に様々で、同一の技術を一般名称として別名で呼ばれる、扱われるなどの現状がみられる。

そこで今回は、本学の短期大学部服装学科専攻科被服専攻(以降、専攻科と略す)「ファッションクラフト」及び服装造形学部服装社会学科2年次(以降、服社2年と略す)「アクセサリクラフト(帽子・服飾造花)」の授業細目のビーズワーク(ビーズ=穴の開いたガラス玉、木、アクリル等の樹脂で出来た玉を用いて細工、装飾すること)に焦点を絞り現状調査を行う。書籍やインターネット調査、質問紙調査を実施し、抽出した技術名称の整理を行う。さらに汎用ソフトであるPhotoshopやIllustratorを用いてビーズ画像のデータ作成を行い、ビーズ刺繍図案デザインやビーズアクセサリのデ

---

\*本学准教授 服飾工芸

ザイン発想などの活用をめざした IT 教材を作成する。さらに、実際に授業展開した結果を考察して、今後の授業改善への手がかりとすることを目的に研究している。研究半ばではあるが一応の成果がみられたので、ここに研究ノートとして中間報告する。

## II. 現状調査

### 1. ビーズに関する先行研究

ビーズワークに関連した先行研究は少ない。「CiNii」の論文検索にかかった国内研究は、4報である。発表順にまとめると、2005年に川口素子<sup>1)</sup>は、ルーマニアの刺繍技法について被服の構成までまとめている。野澤久美子ら<sup>3)</sup>は2006年に共立女子学園が所蔵している254点のビーズワークコレクションの品目別分類や分析を行い、次いで2007年には前述の所蔵品からビーズバックに絞り、文献や雑誌などの図像資料と照らし合わせ、年代識別や製造技法について<sup>4)</sup>述べている。さらに2009年には一連の研究の第三報として畑久美子<sup>5)</sup>が、服飾や手芸の観点から近代におけるビーズワークの解明を目的に、シアーズ＝ローバック社の通信販売カタログに掲載されたビーズ関連記事掲載数などから、当時のビーズに関する流行分析を行っている。本学の横溝美智子<sup>6)</sup>は2008年、ビーズの製造工程や加工法から述べ、ドレス装飾技法としてのビーズ刺繍についてまとめドレス製作への展開について述べている。

さらに、文化学園図書館の検索機能を用いてEBSOhost Academic Search Premier（総合分野／全文）海外検索に4件かかったが、本研究目的とは内容が異なることを確認した。

以上のように先行研究調査では、服飾工芸の立場から情報機器の活用を目的とした内容のビーズワーク関連研究は見つからなかった。

### 2. 情報機器を活用した授業改善

高等教育機関における情報機器を導入した授業改善については、2006年に報告<sup>2)</sup>したように、社団法人私立大学情報教育協会が積極的に取り

組んでいる。協会は教材のデータベース化や情報の共有化を呼びかけ、各種講習会・講演会などを通じた教員指導にもあたっている。例年の研究発表会では、様々な分野での試みやIT教材資料についての研究成果が発表され成果を上げてきている。しかし、被服構成等のパターン教育にはアパレルCADは欠かせず、体型研究やそれらを取り巻く研究はあるものの、服飾工芸分野での情報機器を導入した授業報告やIT機器活用のための教材資料は、この協会においても今のところ報告はない。

### 3. ビーズアクセサリーの現状

#### (1) ビーズアクセサリーの流行

ビーズアクセサリーの流行は、ココ（本名＝ガブリエル）・シャネルが生んだ、コスチューム・ジュエリー（Costume Jewelry＝すべてフェイク素材でつくられ本物ではないアクセサリーをいう）の出現からはじまる<sup>9) 24)</sup>ビーズアクセサリーの現状については、(株)コロネット代表取締役で、生涯学習組織「楽習フォーラム」<sup>38)</sup>を運営し、文部科学省認可の財団法人日本余暇文化振興会<sup>36)</sup>理事などを歴任している伊藤琢磨が著書<sup>9)</sup>の中で、ビーズ教室をビジネスとして成功へ導くための秘策と共に、詳しく述べている。要約すると、「日本で発祥したテグス編み（釣糸のテグスを用いて、ビーズを通したり8の字に糸を交差しながら編みあげる）<sup>12)</sup>が、2000年には愛好者200万人、ビーズのみの市場規模200億円、出版業界では年間100冊以上の本が発刊され、ビーズブームが全国でおきていた」とある。さらに伊藤は、ビーズ教室や認定講師育成を目的に「楽習フォーラム」を立ち上げ、時代のニーズに合わせ、オフルーム（Off Loom＝針と糸で編み上げるビーズ細工のこと。楽習フォーラムではビーズステッチと命名）<sup>9)</sup>やビーズクロッシェ（Beaded Crochet＝あらかじめ糸にビーズを通して置き、かぎ針編みするもの＝楽習フォーラムではジュエリークロッシェと命名）の認定講座などを次々に開講してきた。この本の中で伊藤は「楽習フォーラムにおける『コスチューム・ジュ

エリーコース』の認定講師数は、現在2万2千人にのぼり2002年の初年度認定者数の20倍となった」と述べている。しかし、日本全体の動きをみると、「テグス編みのアクセサリーは2003年から下降をはじめて50%の市場に縮小してしまい、東京・浅草橋にあったビーズショップは全盛期の10%程度、手芸店のビーズ売り場は50%以下となっている。」と述べている。「テグス編み」から「オフルーム」、そして「ビーズクロスシェ」へとビーズ愛好家の関心が移り変わってきているようである。また最近、インターネットのブログに、「ビーズショーの集客の減少でさびしい」などの書き込み記事も多くみられるようになり、それに呼応するかのようになり、ビーズ関連サイトが2008年あたりから更新されていないものが目立ち始めている。このことから、一時のビーズバブルといわれたような爆発的なビーズブームは落ち着いてきたものと推測できる。しかし、ビーズ愛好家、ビーズデザイナー、ビーズアーティスト、ビーズコレクターといわれる人々の数は依然として多く、ビーズアクセサリーは、むしろ日本の文化の中で定着してきたものと考えられる。

## (2) ビーズの団体とビーズショー

前述した本学の被服専攻「ファッションクラフト」履修学生についても、各自の製作したドレスにコーディネートするための装身具、ビーズアクセサリーの製作には、毎年強い関心を示している。また、2010年8月25日から9月6日に高島屋東京店で開催された日本アートアクセサリー協会<sup>39)</sup>主催の「きらめくビーズの世界展」には、文化服装学院ファッション工芸専門課程の帽子・ジュエリーデザイン科に在籍する2年次と3年次学生（以降、学院服飾工芸学生と略す）38名が授業課題としてビーズワークに取り組み、その中から19名の学生作品が招待展示された。このことからビーズという素材は、服飾工芸の製作に欠かせないものである。この展示作品のテクニクに関しては、後述の質問紙調査「ビーズワークに関する調査」で触れる。

現在、ビーズに関連した大きな団体は、前述の「楽習フォーラム」<sup>38)</sup>「日本アートアクセサリー協会」<sup>39)</sup>の他に「ジャパンビーズソサエティ」<sup>37)</sup>などがある。「日本アートアクセサリー協会」では2002年から2009年まで「ビーズグランプリ」というコンテストを開催して、ビーズアーティストの技術向上に貢献してきた。しかし、2010年はコンテスト募集を行わず、通信講座の技術認定の募集も現在は停止している。また、神戸にある「KOUBE トンボ玉ミュージアム」に事務所を置く、「ジャパンビーズソサエティ（前身はNPO法人日米ビーズ協会）」も、横浜大さん橋や神戸などで「Bead Art Show」と題したビーズショーを主催している。ビーズアクセサリーの現状を知るには、この団体の会報『プラスビーズ1号』<sup>26)</sup>の記事からも、多くの情報を得ることができる。山本万里子の「ビーターの倫理」はじめ、アメリカ・ミルウォーキーで毎年6月に開催される全米最大級のビーズショー「BEAD & BUTTON SHOW」に関する興味深い記事などが多数掲載されている。この記事と前述の伊藤氏の著書<sup>9)</sup>から、アメリカが現代におけるビーズ文化をリードする国であることがわかる。毎月各地でビーズショーが開催され、中でもこの「BEAD & BUTTON SHOW」はビーズアーティストにとっては聖地となっている。20年前に創刊され現在20万部以上を売り上げるビーズ情報誌「BEAD & BUTTON」<sup>30)</sup>を発行するアメリカの大手クラフト出版社が主催するショーは、①バザー②ワークショップ(カリスマ講師によるセミナー)③コンテスト④オークションと募金活動⑤交流会⑥講演会が行われる。新しい技術を求めて世界各地からビーズ愛好家がこの地に集まる。300を超える著名なビーズデザイナーによるセミナーは、ある程度の技術・経験を持った人に向けて開かれ、ここでセミナーを開講し、講師を務めることはコスチュームジュエラーの夢であるようである。野末園子<sup>13)</sup>を皮切りに、ここでセミナークラスを開く日本のビーズデザイナー、ビーズアーティストも現れ始め、日本の

ビーズアクセサリ製作に関する技術力の向上には目を見張るものがある。

このようにビーズアクセサリの現状について、さらに詳しく知りたい場合は、この3団体のホームページ<sup>37)</sup><sup>38)</sup><sup>39)</sup>を開くと、おおよそのことがわかる。

### (3) ビーズ教室と技術認定講座

技術認定講座に関しては、前述の生涯学習組織「楽習フォーラム」<sup>38)</sup>の運営する文部科学省認可の財団法人日本余暇文化振興会<sup>36)</sup>と厚生労働省認可の財団法人職業技能振興会<sup>35)</sup>認定のビーズクロスシェ講師認定講座(2010年9月より開講)などがあり、日本では「技術認定」に対する関心が高いようである。この2団体の講座や講習会は、製作キットを用いて技術の標準化、平均化を図っている。また一方では認定講座によらない講座や講習会、ビーズ教室は数限りなく存在し、大手ビーズメーカーのトーホー株式会社<sup>34)</sup>や、(株)MIYUKI<sup>41)</sup>をはじめ、生涯学習のユークキャン<sup>40)</sup>や、全国の手芸店などが主催する講習会、ビーズ教室は依然として多い。前述の「楽習フォーラム」の教育システムは、独自のカリキュラムを立て、キットによるレベルの平均化、標準化を図り、技術認定を受けた者は文科省の技術認定講師として教室を開くことができるので、ここでの認定取得を希望する者は多く、ビーズ教室の拡大普及とビーズブームをもたらした功績は図り知れない。しかし、その標準化したキットだけに頼るビーズ教室の運営に対しては、後述の質問紙調査の一般者(ビーズ教室の受講経験のある主婦)2名の記述欄に、「キット作品は作れても、その他のものを作ることができない。自分では考えられない。」との記入もあった。自由に作りたいものを作るような発想力や応用力を養うことについての課題もみえる。前述の『プラスビーズ1号』<sup>26)</sup>の中で佐藤理恵<sup>12)</sup>は、自らが主宰するビーズに関する人材を育てる講座「スコラ・マエストラ・ペルレ」では、「オリジナル作品を作る力を育てる」「自分の作った教材で教室を運営していく力をつける」と教室の目標

を掲げている。これらは教育方針の相反する考え方であり、今後、高等教育機関における服飾工芸分野の現場においても、考慮すべき二つの内容、①同一の製作課題を用いた授業形態で、授業効率化を図る。②各自が企画し、自由な発想で個性を重視した授業形態で課題を進め発想力を養う、がある。①の場合は発想力をつけることはできないが一定レベルの基礎力をつけられる。②は学生の取り組み方によって授業成果に差が生じ、教育現場での難しい問題である。

調査を進めるうちに、このように様々な問題点が浮かび上がってきた。そのひとつはビーズワークに関する技術名称や用語、表記が実に多種多様に混在、氾濫していることである。そこで、ビーズワークに関する技術名称について書籍を中心に、現在使われている名称を抽出し、整理する必要がでてきたので次にまとめる。

## Ⅲ. 名称・用語の調査と整理

### 1. 技術名称など混在の背景

ビーズは、学生が興味を持つ手芸材料として身近に存在し、「ビーズ刺繍」はいうまでもなく、「ビーズ編み」「ビーズ織り」「結び」などがある。「結び」に類する「タティング(Tatting=タッチングともいう)」<sup>8)</sup><sup>14)</sup>は、シャトルと呼ばれる器具を使い結び目を作りレース状に目を構成するものである。「マクラメ」<sup>7)</sup><sup>14)</sup><sup>20)</sup>(Macrame)は、もとは装飾用の房や紐を意味するアラビア語だが紐を結び合わせて構成するものであり、結び目を構成する糸にビーズを通して結びつけながら構成することもできる。このようにビーズは、あらゆる手芸技法に用いられ、ここ20年ビーズアクセサリ製作の流行に伴い、手芸材料として注目を浴びてきた。したがってビーズワークに関する書籍、技術教本は雑誌を含め、数限りなく出版されインターネットでは製作技術に関する情報ははじめ掲載が多い。2010年9月5日21時に「ビーズ」と打ち込み検索すると0.05秒に123,000,000件が、「ビーズアクセサリ」では0.05秒に15,700,000件が検索に



かかるほど情報量が多い。そこでは、ビーズ材料の購入サイトにまで無料作り方レシピ<sup>41)</sup>が掲載されており、製作技術に関する情報入手も簡単にできる。書籍やホームページ、ブログなどにかかれた、技術名称、用語や表記記号、図解などは、情報量が多いだけに信頼性の低いものもみられる。

一方で、国際標準記号 ISO やそれをもとにしている JIS 記号には、服飾工芸に関する用語の定義や記号が大変少ない。一般的な技術指導書においては、著者の様々な工夫から、同一のテクニックに別名をつける、技術解説のための表記記号などについても、新たに生み出すといった例もみられる。

服飾工芸の分野では、編み物に関して国際規格番号 ISO4921-2000 表題 Knitting-Basic concepts-Vocabulary (編み物基本概念用語) 発行年 2000 年 12 月 21 日 対応 JIS 規格 TCISO/TC38/SC20 ICS01.040.5959.020 がある。JIS (日本工業規格) に関してしてみると、手編み及び手編機械に関しては『編目記号』(Letter symbols for knitting stitch) JIS L -0201-1995<sup>25)</sup> に①家庭用編機編目②棒針編目、③かぎ針編目、④アフガン編目が掲載されており、他に『繊維用語 (レース部門)』JIS-0214-1983 と、『縫製用語』JIS-0122-2003 に関連用語が掲載され、さらに関連の衣服パターンに関する記号や縫製におけるステッチ名称と表記記号などの掲載はあるが、服飾工芸に関連する、マクラメ編み記号やビーズワークに関する記述がみられないことも、技術名称や用語、記号の氾濫を招いている一因と推測できる。さらに、「棒針編み」「かぎ針編み」「アフガン編み」については JIS で「編目記号」が制定されているにもかかわらず、技術教本を執筆する著者や出版社が、必ずしもその編目記号を使用しているとは限らず<sup>21)</sup>、独自の記号で解説する例もみられる。

## 2. 技術名称の調査

技術名称や表記記号、図解、写真に関する調査に用いた書籍は、洋書 16 冊、和書 (雑誌、

会報誌含む) 97 冊である。また、インターネットの検索は、「ビーズ」「ビーズアクセサリ」などと入力し、サイトやブログを順次開いて確認作業を進めたため、正確な件数は記録できていない。

表 1 は参考文献、参考とした URL を抜粋してまとめたものである。

ビーズワークの技法については古代からあり『世界のビーズ文化図鑑 民族が織りなす模様と色の魔術』<sup>10)</sup>によると、「ボルネオ、中央アジア、グリーンランドといった互いに遠く離れた地域の文化に、共通した細工の方法が見られることがあり、過去に文化間の交流があった証拠ととらえるよりも、ビーズ細工という課題に互いの文化が取り組んだことの証と見るほうが妥当である。」とある。似通った技法が多く存在しているのは、ビーズは世界各地で生まれ、その地で別々に発展していったと考えられる。また、日本にベネチアングラスがあることを考えると、もちろん交易と共に広がった技法やビーズも多く存在する。さらに、アレンジやバリエーションを含めると技法名は多くなるが、ビーズの穴に糸を通す、糸を絡めるなどの基本的な技法は限られているので、地域によって、時代によって別名称で扱われることは否めない事実であり、そのことも名称の混在を招いているひとつの要因と考えられる。

ビーズワークの技法は、単純に「刺す」「編む」「織る」「結ぶ」などに分けることができない。「刺す」という技法は、針と糸を用いてビーズを布地に止め付けながら刺繍するビーズエンブroidery (Beads Embroidery) が「刺す」という技術の代表的なものとするのは明確である。棒針を用いて編む「ビーズニットング (Bead Knitting)」<sup>19)</sup> や、かぎ針を用いて編むかぎ針編みの「ビーズクロッシェ ((Beaded Crochet))」<sup>21) 27)</sup> ビーズ織機を用いて構成する「ビーズ織り (Loom Weaving)」<sup>11)</sup> などは判りやすい。しかし、ビーズワークの技法には、針に糸を通してビーズの穴に針を刺しながら、または通した糸だけをすくい絡めて編み上げてい

表1 主な調査資料抜粋（参考文献掲載を除く）

1	飯島みどり『ラッキーストーンでクラフトジュエリー』文化出版局, 2001
2	生田光子『続・タッチングレースとビーズタッチング』源流社, 1995
3	今井史子(監)『編み目記号の本 かぎ針編み』日本ヴォーグ社, 2009
4	ウタ・オーノ『天然石のビーズ・アクセサリ』小学館, 2003
5	雄鶏社(編)『DERICA BEAD LOOM デリカビーズ織り 20周年記念作品集』デリカビーズ織り協会, 2006
6	川上淑子(編)『ビーズアクセサリ』日本ヴォーグ社, 1997
7	河原生典, 島野聡子(編)『創作市場別冊 20 VENETIAN BEADS STITCH』マリア書房, 2006
8	日柳佐貴子『ビーズジュエリー・エッセンス』文化出版局, 2004
9	佐藤理恵『佐藤理恵 Beads Book』幻冬舎ルネッサンス, 2008
10	佐藤理恵『ヴェネツィアンビーズの魅力』平凡社, 2006
11	坂部規明(編)『基本だけで作れる初めてのビーズステッチ』ブティック社, 2009
12	坂本典子, 山口裕子(編)『ひとつ作れば使い方がいい。私だけのジュエリークローゼット』河出書房新社, 2010
13	坂本典子, 山口裕子(編)『ビーズとかぎ針で。大人スタイルのジュエリークローゼット』河出書房新社, 2009
14	澤登松子『アジアシックビーズアクセサリ』文化出版局, 2002
15	澤登松子『アンティークテイストのビーズアクセサリ』文化出版局, 1999
16	澤登松子『ビーズを主役に小さなバッグ』文化出版局, 2000
17	柴田祥衣『天然石ビーズで作る大人のクチュール・アクセサリ』河出書房新社, 2009
18	主婦の友社(編)『はじめてのビーズ・レッスン』主婦の友社, 2010
19	煤孫勇夫(編)『天然石ビーズアクセサリ&カタログブック』パッチワーク通信社, 2008
20	須田智子『天然石でつくるコスチュームジュエリー』日之出出版, 2010
21	せばたやすこ(監)『きほんのかぎ針編みでもっといろいろできるよ。』成美堂出版, 2008
22	高橋ひとみ(編)『かぎ針とレース糸で編むアクセサリ ビーズクローゼット』ブティック社, 2010
23	高橋洋二(編)『別冊太陽 骨董を楽しむ 39 ヴェネツィアンビーズ』平凡社, 2001
24	田中裕子(編)『大人のビーズコレクション』実業之日本社, 2004
25	デアゴスティーニジャパン『隔週刊 BEADS ACCESSORY』vol.1 ~ 20, 2006 ~ 2007
26	デリカビーズ織り協会『すてきなビーズ織り アクセサリ&バッグ』雄鶏社, 2000
27	内藤朗(編)『女性のためのビーズワーク』ブティック社, 1994
28	西田碧, C・R・Kdesign『ビーズの経緯り』雄鶏社, 2008
29	坂将志(編)『にちぶんMOOK マイ・ビーズ・スタイル 15』日本文芸社, 2010
30	ファッションビジネス学会(監)『ファッションビジネス用語辞典改訂版』文化出版局, 2006
31	三浦明子(監)『おしゃれなビーズ織りを楽しむ』マコー社, 2009
32	水野久美子『ビーズステッチテクニックBOOK』コロネット, 2009
33	水野久美子, 周藤紀美恵『ビーズステッチ認定教科書 [基礎編] LESSON1 ~ 7』コロネット, 2009
34	水野久美子, 周藤紀美恵『ビーズステッチ認定教科書 [応用編] LESSON8 ~ 12』コロネット, 2009
35	水野久美子『もっと知りたいビーズステッチ~アドバンスへの挑戦~』コロネット, 2008
36	水野久美子『誰でもやさしく楽しめる ビーズステッチアクセサリ』シリーズ, パッチワーク通信社, 2007-2008
37	宮本恭庸(編)『季刊ランプワークガラス情報マガジン LAMMAGA』vol.1 ~ 12, ジャパンランプワークソサエティ
38	余合ナオミ『ワイヤーモード ビーズ×ワイヤースタイルのコスチュームジュエリー』マリア書房, 2008
39	yoko『純白のビーズジュエリー』日本文芸社, 2008
40	yoko『幸せのウエディングジュエリー』実業乃日本社, 2005
41	yoko『手作りのウエディングビーズジュエリー』実業乃日本社, 2008
42	Arlene Baker, <i>Beads in bloom</i> , Interweave Press, USA, 2002
43	Carol Taylor, <i>Creative Bead Jewelry: stringing, wiring, weaving, looming, making beads</i> , Lark Books, USA, 1995
44	Claudia Schumann, <i>Glasperlenketten häkeln-Das Musterbuch</i> , Creanon, Deutschland, 2007
45	Heidi Kummli, Sherry Serafini, <i>The Art of Bead Embroidery: Technique, Design, &amp; Inspiration</i> , Kalmbach Books, USA, 2007
46	Jamie Cloud Eakin, <i>Beading with Cabochons: Simple Techniques for Beautiful Jewelry</i> , Lark Books, USA, 2005
47	Jean Campbell, <i>Beadwork Creates Bracelets</i> , Interweave Press, 2002
48	Jean Campbell, <i>Beadwork Creates Necklaces</i> , Interweave Press, 2002
49	Julia Gerlach, <i>Basic Bead weaving: Herringbone Sticht</i> (Bead & Button Books), USA, 2005
50	Pam Preslar, <i>A Beadworker's Toolbook</i> , Polar Publishing Company, USA, 1995
51	Paula Higgins, Lori Blaser, <i>A Passion for Purses</i> , Schiffer Publishing, USA, 2007
52	Vicki Star, <i>Beadind with Herringbone Sticht</i> , Interweave Press, USA, 2001
53	bead on the beach < <a href="http://www.beadjapan.net/">http://www.beadjapan.net/</a> >最終参照日 2010年10月4日
54	le-meace ヴィンテージビーズアクセサリショップ< <a href="http://www.le-meace.com/">http://www.le-meace.com/</a> >最終参照日 2010年10月4日
55	Yoshie's Jewel < <a href="http://www.yoshiesjewel.com/">http://www.yoshiesjewel.com/</a> >最終参照日 2010年10月4日
56	WinKnit < <a href="http://www.veceter.co.jp/soft/win95/home/se011015.html">http://www.veceter.co.jp/soft/win95/home/se011015.html</a> > 最終参照日 2010年9月18日
57	かぎ針編みの図案作成 < <a href="http://okwave.jp/qa/q2094302.html">http://okwave.jp/qa/q2094302.html</a> > 最終参照日 2010年9月18日
58	サン・ビーどる < <a href="http://www.sun-beadle.com/">http://www.sun-beadle.com/</a> >最終参照日 2010年10月4日
59	手芸図案作成ソフト KG-Chart ビーズ織り図案作成ソフト KG-Chart for Bead Weaving < <a href="http://www.iktssoft.net/kgchart/kgchart-bw/8092/">http://www.iktssoft.net/kgchart/kgchart-bw/8092/</a> >最終参照日 2010年9月18日
60	トルコ手芸教室西屋 オヤについて < <a href="http://www.akaneya.net/lace/oya.html">http://www.akaneya.net/lace/oya.html</a> > 最終参照日 2010年10月16日
61	ビーズキットやアクセサリのビーズマニア   ビーズコンシェルジュ < <a href="http://www.beadsmania.com/Contents/concierge/ra/ro.aspx?menu=09-5#002">http://www.beadsmania.com/Contents/concierge/ra/ro.aspx?menu=09-5#002</a> > 最終参照日 2010年10月4日

く技法もある。テグスとよばれる透明な糸にビーズを通し編みあげていく「テグス編み」<sup>12)</sup>は日本で発祥したものである。

名称が混在する要因を考えるため、本学の被服専攻科「ファッションクラフト」でアクセサリ製作の解説と実習を行っているオフルーム(Off Loom)<sup>33)</sup>と呼ばれる技法名称について取り上げる。「オフルーム(Off Loom)」は、針と糸を用いてビーズ織機(Loom)を使用せずに手織り(編みあげる)技法であることは先に記載した。はじめは「織る」の扱いで、「Bead weaving」<sup>28)</sup><sup>29)</sup>と呼ばれていたこの技法であったが、アメリカで約40年前に「ビーズ織りではないビーズワーク」の流行が復活した際に「オフルーム」という言葉が誕生した。日本にこの技法が入ってきた15年ほど前には、この技法名はすでにアメリカでは一般に定着しており、それが世界に波及し多くの書籍にも使用されてきたものである。しかし現在は、この技法を「ビーズステッチ」と呼ぶこともある。これについては、前述の「楽習フォーラム」が2002年の認定講座の開設<sup>36)</sup><sup>38)</sup>に当たり、「オフルームでは違和感を覚える」との理由で、針と糸でステッチする技法であることから「オフルーム」を呼び変えて「ビーズステッチ」と命名したことが始まりである。近年、世界最大のビーズショー「BEAD & BUTTON SHOW」に「楽習フォーラム」で認定を受けた日本人アーティストも進出し講座を開くようになってから、本場アメリカの書籍<sup>32)</sup><sup>38)</sup>のタイトルにまで「ビーズステッチ」が使用されるようになってきた。確かに「オフルーム」は、部屋の(Room)と混同しやすいなどの問題はある。しかし、長年教師をしてきた経験から考えると、学生にとっては、はじめて聞いたり知識として頭に入った用語や名称は違和感なく受け入れ、「これは、このように呼ばれるもの」と認識して覚えていくようである。

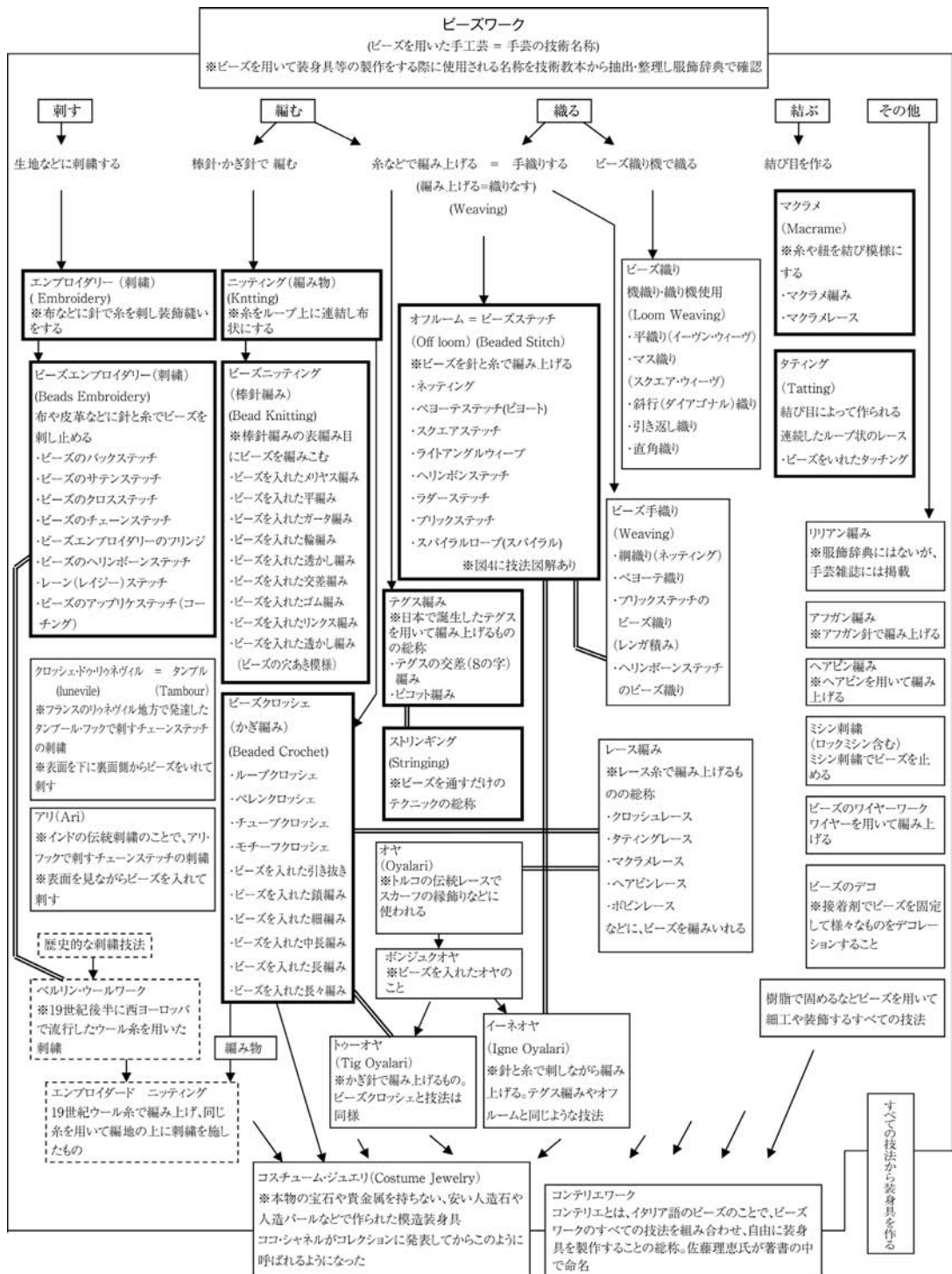
今回、質問紙調査に「ビーズステッチ」に対する用語の認識について設問を設けたところ、むしろ被服から勉強をはじめた本学の被服

専攻の学生にとっては、「ビーズステッチ」とは、「ステッチ」という語句の響きやイメージから、「布に刺すもの、ビーズを止める=ビーズ刺繍」「ミシンの飾りステッチ」「ミシンの目」であると全員の学生が答えた。「ステッチ」のJIS=L0122縫製用語の定義によると、「糸または、糸のループが自糸ルーピング、他糸ルーピング、他糸ルーシングし、又は布の中に入りもしくは、布を通り抜けてできる形態の1単位」とある。また、新・田中千代服飾辞典<sup>15)</sup>などにも、「(～針)(～縫い)(～編み)(～かがり)(縫い方)(編み方)などの意味。針目の総称」とあるので、針目であれば、布に刺繍することに限らず、ミシン目やミシンによる飾りステッチなどまで含まれる言葉であることがわかる。そのため、「オフルーム」のことを「ビーズステッチ」と呼ぶことは定義的には間違いではない。これについては「ビーズステッチ」と命名した伊藤も<sup>9)</sup>、そのカリキュラムを監修した水野久美子<sup>22)</sup>もヴォーグ出身者で、編み物からこの世界に入った人物であったことが、「ステッチ」に対する被服専攻の学生との認識の違いと考えられる。このように、著者の工夫や思いから新たな用語が生み出されていくことがある。用語が増えることで、より煩雑になる場合もあるので、執筆にあたる著者や出版社は、新しい用語や名称を誕生させるに当たっては、細心の注意を払うことが大切であると考ええる。

### 3. 技術名称の整理

今回、この調査に上らなかった名称や用語もまだ数多く存在すると思われるが、ここまでのところで、今回抽出した技術名称を図1にまとめ、整理する。

横列に「刺す」「編む」「織る」「結ぶ」「その他」に分ける。「編む」「織る」の中間に「編み上げる=織り上げる」を置く。「オフルーム=ビーズステッチ」は「手織り」と同じ技法であるため、=でまとめる。「機織り」は、ビーズ織機を用いて縦糸を張り、横糸を渡しながら、または通しながら織られるものとし、「手織り」は、オフルームと同様に針と糸で織り上げるも



注1) 実践枠内に技法別名称及び解説(破線枠は過去の技法) 注2) 太線枠は本学授業で解説・実習 注3) =は同様の技法 注4) →は一連のグループ

図1 ビーズワーク技術名称一覧



のとする。「その他」には、それ以外の技法をまとめる。「編む」について今回は、棒針とかぎ針を使用するものとしたので、「リリアン編み」は、「その他」の扱いとする。「リリアン」は、リリーヤーンと呼ばれるメリヤス編みの糸を「ニッチング」と呼ばれる手のひらサイズの編み機を用いて編むもので子供の遊びの一種であった。近年はテグスなどにあらかじめビーズを通しておき、この「ニッチング」を用いてアクセサリーなどを編む技法として再出現してきたものである。同様の理由から「アフガン編み」「ヘアピン編み」も「その他」の扱いにする。

また、縦には、それぞれの技法をまとめて整理した。「オヤ」については七海光の著書にわかりやすく解説がある。トルコの伝統レースで、スカーフの縁に装飾するものとあり、ビーズを用いたものは「ボンジュクオヤ」とよばれ、「イーネオヤ」<sup>16)</sup>は針に糸を通し結び目を作り編んでいくとある。また「トゥオヤ」<sup>17)</sup>はかぎ針で編むものである。JIS記号のかぎ針編み記号を使用して書かれ、ビーズを通す位置は実線で書かれている。「トゥオヤ」は、ビーズクロッシェと同様の技法であるが、「イーネオヤ」は針と糸でビーズを刺しながら編み上げる技法であるのでオフルーム(=ビーズステッチ)の隣に位置づけた。このように今回は整理をしたが、今後もこの図については継続調査を行い、各分野との確認をとりつつ、様々な角度から再検討を行い修正を加えていきたい。

#### 4. 質問紙調査

書籍などの調査を終えた段階で作成した図1の名称に関する認識についてを確認するために質問紙調査を実施した。

調査期間は2010年9月24日から10月13日(最終質問紙の回収)となった。今回は技術名称の考察に係わる設問のみ取り上げる

##### (1) 質問紙について

- 1) 調査対象者に関する調査
- 2) ビーズワークに関する語句、技術名などの知識に関する調査
- 3) 自身のビーズワーク製作経験に関する調査

4) 服飾工芸分野における教育改善や技術修得補助のための情報機器の使用についてA4用紙17ページからなる4項目26問を準備した。調査対象者を3グループに分けて、3)についての問いのみ、調査対象者それぞれにあわせた3種類とした。Aグループは、専攻科学生16名(20~21歳)で、2010年後期「ファッションクラフト」の授業において、卒業制作のフォーマルドレスに合わせた装身具製作を行う予定のある学生とした。そこで、後期授業で製作したいアイテムを問う内容とした。

Bグループは、前述の「きらめくビーズの世界展」に作品参加した学院服飾工芸学生25名(19~61歳)を対象に、参加作品の製作技術を問う内容とした。

Cグループは一般27名(本学教員9名、4年生8名を含む21~81歳)を対象に過去の製作経験を問う内容にした。このCグループについては、ビーズワークの経験者を調査対象としたためビーズ刺繍家、ビーズアクセサリー教室の主宰者、ビーズ教室に通う主婦ら10名しか集められなかった。回答比較を前提に、ビーズワーク経験のある本学教員とビーズワーク経験のある服装学部ファッションクリエイティブコース4年生8名を加えて行った。質問紙調査の全回答者数はAグループ16名、Bグループ25名、Cグループ27名の計68名である。

##### (2) 質問紙調査結果

今回の質問紙による詳しい分析報告は紙面の都合上、次の機会に行う。ここでは、技術名称の整理と情報教育に関する設問のみを抜粋してまとめる。

①技術名称の「ビーズ刺繍」は、3グループすべてに約8割程度の認知度があり、よく知られているテクニックであった。

②グループごとに名称の認知度には差のあることが読み取れた。Aグループの専攻科学生は「ビーズ織り」6名「ビーズニッチング」2名「ビーズクロッシェ」2名が「聞いたことがある」と回答したがその他の名称はすべて「知らない」であった。

③ Bグループの学院服飾工芸学生は、「ビーズステッチ」「ネットィング」<sup>30)</sup>「ビーズクロスシェ」に関するテクニック名称についても、「聞いたことがある」「見たことがある」がいずれも数名ずつおり「今回の製作のために調べた」「教わった」「ビーズ展で見た」と回答があった。課題の中でまだ経験していない専攻科学生との違いに差が出たものと考えられる。

④ Cグループの一般者で、刺繍経験のあるものは教員を含むため、刺繍に関する名称をかなり知っている者が多かった。しかし、ビーズ教室に通った経験のある主婦の場合でも、テクニック名称についてまでは「知らない」との回答が目立ち、技術名称を意識しないままに、教材キットを用いて製作してきたことがあきらかになった。

⑤ 製作経験についても、Aグループ専攻科学生は、刺繍の授業経験以外は、「テグス編み」3名「ビーズのワイヤーワーク」2名のみであり、製作経験は少ない。

⑥ 学院服飾工芸の学生においては、今回の課題で初めてビーズワークを経験した者は少なく、以前よりビーズを扱っていた学生が目立った。

今回の製作で用いたビーズワークのテクニックは、既存のテクニックを用いた場合でも、使用箇所は部分的で、「刺繍」5名「ビーズ織り」「テグス編み」「ミシン刺繍」2名「ビーズのワイヤーワーク」「ネットィング」「ペヨーテ織り」<sup>31)</sup>「スクエアステッチ」「ビーズのクロスステッチ」「ビーズのサテンステッチ」が各1名ずつであった。その他の学生は「独自に技法を考えた」とのことで、「アクリル棒を熱してその上から糸に通したビーズを巻く」「糸と針と金網とフェルトを巻いて立体にする」「ホースヘアをベースに使いその上から刺繍糸を敷き詰め、その上にビーズを敷き詰めた」などのユニークな方法を考案して製作されていたことがわかった。

⑦ 参考にした技術教本の記号がJIS記号を用いて表記されていたかどうかに関する設問については、「JISでの用語、表記記号を知らないの

でわからない」が約1/3、「JISで表記されているとの注意がないので判断が付かない」が約1/3、無回答または「わからない」との書き込みをあわせると約1/3と3つに分かれた。

⑧ 情報機器の使用に関する設問では、Aグループ専攻科学生3割が作品製作のためにインターネットで「調べたことがある」と回答したものの、材料のネット購入経験者は2名であった。しかし、Bグループ学院服飾工芸学生は6割が「調べたことがある」と回答し、そのうちの半数の学生が材料のネット購入経験者であった。

⑨ 本研究の情報機器をデザイン発想や色彩計画に使用することに関しては、Aグループ専攻科学生は7割、Bグループ学院服飾工芸学生は6割、Cグループ一般は5割、「使いたい」と答えた。コンピュータ使用経験が少ない一般は、「難しいものではないのか」との操作に対する懸念から低くなったと考えられる。活用を希望する学生の理由は「使いやすいければ使ってみたい」「操作が簡単なら」という理由が多かった。活用したくない学生の理由は、「今までのように実物でやったほうが慣れているから」というものが多かった。一般についても「今までの方法でよい」との回答が多かった。

#### 5. 服飾博物館の収集作品調査

ビーズワーク技法について、本学の文化学園服飾博物館に所蔵されているビーズワーク作品の技術調査についても調査項目の中に加えた。文化学園服飾博物館内の端末で、日本にかぎらず世界の衣裳及び服飾品より、6,000件、30,000点余りの画像と高精細画像50点が検索できる。その中から43点のビーズワーク作品を抽出した。さらにその画像から6点のビーズバックと1点のビーズクロスシェ(かぎ針編み)の手袋を選定し、特別観覧願を提出して所蔵作品の技法について調査した(表2)。10倍のルーペを用いて確認したが、貴重な資料であるため、写真撮影し、さらにパソコン画面で写真の画像を拡大表示してテクニックを確認した。その結果、19世紀末から流行した細いウール糸

で基布を編み、編地に同糸で上からビーズを施すベルリン・ウールワークやエンプロイダードニッティングの技法と考えられる作品もみられた(表2)。

また、図3の手袋はクロッシェの輪編みであったが、編地の表面にビーズが編み込まれていた。細編みをする際にビーズを引き寄せて編む場合、通常は、かぎ針の差し入れ方は手前から向こう側に差し入れるため、ビーズは編地の裏側に出る<sup>21)</sup>。しかし先行研究<sup>4)</sup>に当時のものは、ビーズを表側に編みこむと述べられており、この手袋で確認することができた(図2)。表面にビーズを出すためには、かぎ針の差し入れ方は通常の逆に行い、向こう側から手前に差し入れ糸を引きだしビーズを送って表面に細編みでビーズを編みこんでいたと思われる。最

近、ビーズアクセサリーの新しい技法としてオフルームに続いて関心を集め始めた、かぎ針編みのビーズクロッシェも、ビーズエンプロイダリーとマッチングさせる技法も、最近人気のワイヤーワークも、今回の調査作品には、すでに口金にワイヤーを用いてビーズを通し丸めて口金留めとした作品もみられるなど、技法は昔から存在することも確認できた。いずれ機会が作れば、今回の調査をもとに、43点すべての技法について詳細に技法分析も行いたい。簡単ではあるが表2に7点の技法をまとめる。

#### IV. 本学の情報機器活用

今回は、本学での服飾工芸分野での情報機器の活用状況と、ビーズ刺繍図案作成およびビー

表2 文化学園服飾博物館所蔵ビーズ作品調査

所蔵品番号	アイテム(サイズ)	年代	技法
1 01116	手袋 (22cm×12.6cm)	19世紀半ば	・ビーズクロッシェ ・表面から輪編みの細編み。かぎ針を向こう側から手前に差し入れて表面にビーズを編み入れていくバック細編み ・フリンジ細編み
2 01517	バック (25.5cm×13cm)	1920～ (大正10～ 15年)	・フレームはベッコウ製 ・カラービーズ ・ビーズはやや大きめ、丸大と丸中の中間程度 ・フリンジは現在の丸小程度2～2.5mm ・裏に編み入れ、表面には裏面が出ている ・減らし目はしていない
3 35	バック (14.5cm×14.8cm) 久邇宮良子女王 (皇淳皇后)使用	20世紀 (大正)	・松編み ・左利きの人が反時計回りに編んだものか、表面に編み目の裏面が出ている ・長編みの上部に細編みか、引き抜き ・房の長さは2.8cm。0.3mmのビーズ使用
4 01336	バック (21.5cm×12.8cm)	1900～ 1910年頃	・クロッシェのバック ・1mm程度のシードビーズで大変に細かいビーズを用いて編み込まれている ・紐は鎖編みされている
5 01071	バック	1920年代 フランス	・ネッティングやペヨーテ風にも見えるが、よく見るとキャンパス地に刺繍されている ・古くからの技法、レースタッチとバックステッチでビーズを止めているようである
6 01072	バック	1920年代	・ラインストーン ・刺繍技法でラインストーンを止めつけているようにも見えるが、基布が見えない。刺繍糸と同じ糸で基布が編まれ、その上に刺繍技法を施すエンプロイダード・ニッティングと思われるが、解体調査していないので確証はない
7 04704	バック (17cm×22cm)	1920～ 1930年頃	・ガラスメタルの2mm弱のシードビーズを用いてビーズ刺繍を全体に施したブライドワークのバック ・アクセントにチェーンステッチで刺繍を加えている ・口金はワイヤーにビーズを通してワイヤーワークでオリジナル留め具を作成してある



図2 ビーズ拡大



図3 ビーズの手袋

ズアクセサリ-製作のためのデザイン発想補助ツールとしてIT教材作成試案から、その活用までを簡単にまとめる。

#### 1. 教材提示装置の活用

本学の服飾工芸分野の授業では、平成12年より横川エムエーティからDML-8シリーズの教材提示装置を購入し、テレビ画面に教員の手の動きや作業手順などをリアルタイムに拡大表示して授業を行い今日に至っている。この分野は、使用する材料も細かく、指先の動きまで見せる必要があるため授業改善の目的で導入したものである。カメラが上部に固定されているので手元の動きによってはピントがずれないように一定の高さを保持し、画面からも外れないように注意して師範する必要がある。コレクション情報誌や実物学生作品の提示ができるため細目のはじめに参考作品の提示に用いたり、造花やネックレスといった小さいサイズの装身具は、作品発表会の際にこの教材提示装置を用いて学生のプレゼンテーションに活用している。

#### 2. パソコンの活用

被服専攻科の「ファッションクラフト」および服社2年の「アクセサリ-クラフト(帽子・服飾造花)」で、学生が興味を持ってビーズワークデザインを行い製作手順なども立案できるように、汎用ソフトであるPhotoshopやIllustratorを用いる方法を考察する。

作品製作は通常、実物作品に用いるテクニックや材料の決定までに数回の試し刺しや試し編みによるサンプル作成を行う。何回も繰り返されることも多いのでビーズワークの場合、パールやベネチアングラスを用いると高価であるためサンプル製作は費用がかかる。そこで、情報機器を導入した場合の授業組み立てから検討して、モデル授業案を立てる。

##### (1) モデル授業の手順

- ①製作するアイテムを決め、ビーズ材料のリサーチをインターネットのショッピングカタログ等から行う。
- ②使用してみたい材料のページをプリントスクリーンし、またはWeb保存してPhotoshopで

使用材料のビーズを切り取り、保存する。これを用いてコピー&ペーストで画面上でカラー変更、ビーズやパールサイズ変更、配置、配色を繰り返して、刺繍図案やアクセサリ-のシミュレーションを行う。

③使用した画像は材料のデータベースとして保存しておく。

④画面上で使用材料を見積もり、試し用の材料のみを購入してサンプルを作成する。

⑤デザイン決定し、製作に必要な材料を購入して実物作品の製作にかかる。

この方式はパソコン操作の慣れた学生の場合には問題ない。しかし授業効率を上げるために、切り取ったビーズデータを準備しておく。

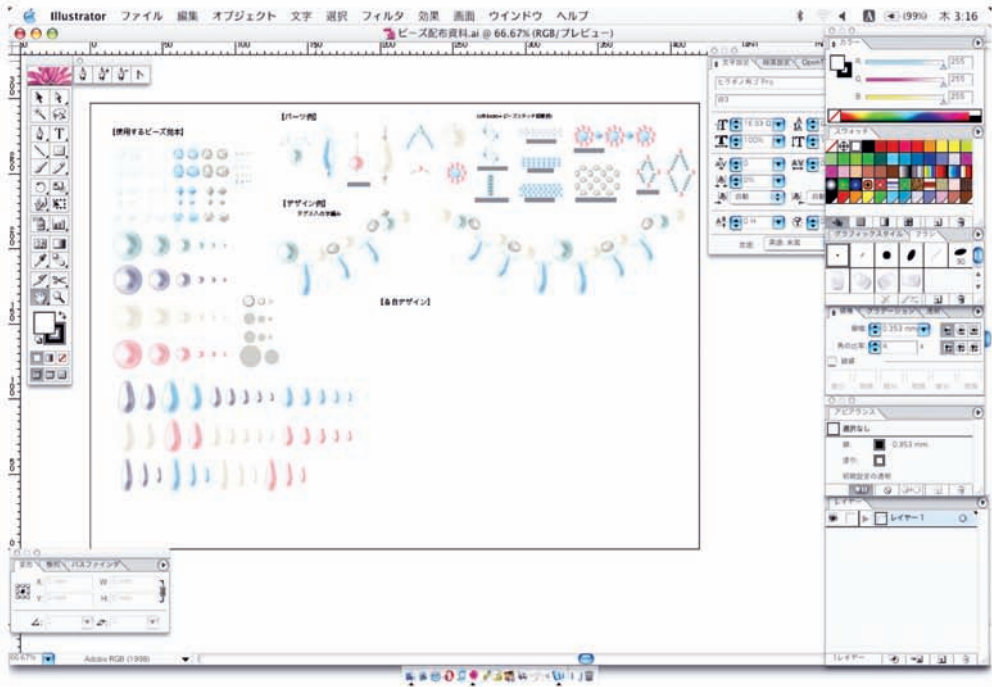
また、Illustratorのブラシに登録して作業するとデザイン発想をする際、線を引く要領でビーズを画面に並べることができるので、学生の使用頻度の高いパールやビーズを元にして「ブラシ登録」できる「単色オブジェクト」に変更したビーズ画像データを、学生に配布する。図4はその画像データである。これを作業ページとして保存しておくことと便利である。また、「単色オブジェクト」に変更する手順についても、学生が好みのビーズをデータにできるように作業手順プリントも配布した。

##### (2) 画像データを用いての授業報告

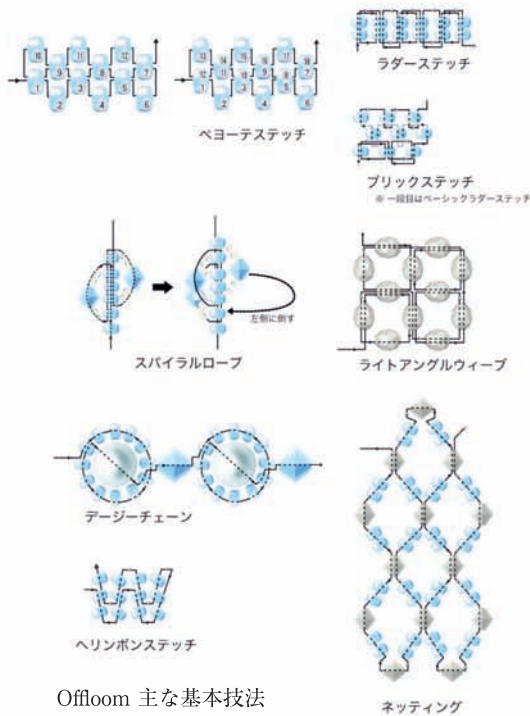
本学の被服専攻「ファッションクラフト」において、2010年後期3回実施した。

その授業内容は、事前の質問紙調査で製作したいアイテムとしてティアラとネックレスが多かったので、それを画面上で示範した。ビーズ構成上、平面の扱いでデザイン可能であったため画面上にビーズを並べるだけで、おおよそのデザインの組み立てが可能である。糸を通すだけの「ストリングング」や「テグス編み」の8の字編みや基本的な「オフルーム」のスクエアステッチ、ペヨーテステッチ、デージーチェーンなどは容易にデザインできるのでそれらの基礎実習もあわせて行った。立体作品デザインの場合でも、Illustratorの機能の「効果」→「3D」でビーズを回転させて並べると立体

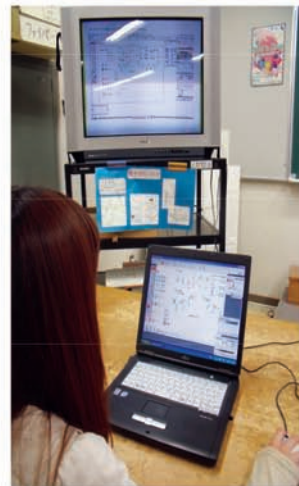




デザイン発想用の作業画面



Offloom 主な基本技法



デザイン実習風景

図 4 Illustrator を活用した授業教材の試作及びテスト授業

図に見えるため、学生はイメージしやすい。今後は授業回数を重ねながら、さらに検討を行い授業改善に役立つIT教材データを作成していくことが課題である。

実際に授業を受けた学生は、「初心者、何もないと頭の中だけではイメージできないのでよいと思う」「コピーしてはりつけるだけなので思ったより簡単である」と、「事前アンケートよりは、実際に見てみるときれいで楽しい」などと容認する回答と「慣れているから今のままでよい」に分かれた。

## V. まとめ

①名称・用語の整理については、今後も調査を継続して、多方面からの意見交換を繰り返して整理する必要がある、そのためには教育機関に止どまらず産学共同研究グループなどを立ち上げ、JISやISOまでの国際標準化を視野にいたれた研究が望まれる。

②質問紙調査の結果、学生、一般を問わず、感性教育のための補助ツールとしての情報機器の導入については、服飾工芸の分野での活用を求める声が半数以上を占めた。しかし、「やはりサンプルは実物でやりたい」との回答も多かった。

③汎用ソフトなので、ビーズ刺繍図案構想、ストリングング、テグス編み、基本的なオフルームなどの単純構成の作品には楽しく実習できそうである。「デザインした後も、糸のかけ方などの構成計画もできる。」と一般からの回答が多かった。

④ビーズデザインは基本的な方法の上に、バリエーションが多いため、似通ったデザインになる場合が多い。教育機関だからこそ、デザイン能力開発と共に、知財権についても講義する必要もある。調査の段階で眼にした、「デザイナーの倫理について」<sup>26)</sup>の内容は教育の改善を考える場合、デザイナーの倫理についても正しく伝えていくことも大切であると感じた。

名称については、一応の図式まで行うことが

できたが、表記記号についてはまだ、研究が始まったばかりである。この中間報告が、産学を超えて、服飾工芸の技術名称や用語、表記記号の整理に関心を持っていただけることを切に願う。一人の力では限界があるので誤りがあればぜひご意見、ご指導を賜りたい。そして賛同いただける皆様のご協力をいただき研究グループの発足を願うものである。

最後に、この研究ノートをまとめるにあたり、質問紙調査をはじめ、大変多くの方々の温かいご支援とご協力に心より感謝し御礼申し上げて中間報告を終わる。

## 引用文献・参考文献

- 1) 川口素子「ルーマニア・メラ村の民族衣装とビーズ技法について」『杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部紀要』第4集, pp. 79-98, 2005
- 2) 高橋良子, 横堀秀子, 真鍋彰子「被服構成実習科目における情報機器の導入について - 授業改善のための学生アンケート調査より -」『文化女子大学紀要 服装学・造形学研究』第36集別刷, pp. 45-60, 2005
- 3) 野澤久美子, 伊藤紀之「ビーズに関する基礎研究 I - 共立女子学園所蔵ビーズワークを中心に -」『共立女子大学家政学部紀要』第52号, pp. 57-65, 2006
- 4) 野澤久美子, 伊藤紀之「ビーズに関する基礎研究 II - 共立女子大学所蔵ビーズ・バッグを中心に -」『共立女子大学家政学部紀要』第53号, pp. 65-77, 2007
- 5) 畑久美子「ビーズに関する基礎研究 III - シアーズ = ローバック通信販売カタログにみるビーズワークの流行 -」『共立女子大学家政学部紀要』第55号, pp. 21-32, 2009
- 6) 横溝美智子「服飾におけるビーズ装飾技法」『文化女子大学研究紀要 服装学・造形学研究』, 第39集, pp. 7-14, 2008
- 7) 池田初枝『ヴォーグ基礎シリーズ マクラメ』日本ヴォーグ社, 2000
- 8) 生田光子『タッチングレースとビーズタッチン

- グ』源流社, 1994
- 9) 伊藤琢磨『認定セミナー講師成功マニュアル』実業之日本社, 2010
  - 10) Caroline Crabtree, Pam Stallebrass (著), 福井正子 (訳)『世界のビーズ文化図鑑 民族が織りなす模様と色の魔術』東洋書林, 2003
  - 11) 佐古孝子『佐古孝子の創作ビーズ織り』マコー社, 1999
  - 12) 佐藤理恵『佐藤理恵 Beads Book II』幻冬舎ルネッサンス, 2009
  - 13) 野末園子『Mode de Beads』ワニマガジン社, 2008
  - 14) 聖光院有彩『タティングレース 新しい世界』雄鶏社, 2006
  - 15) 田中千代『新・田中千代服飾事典』同文書院, 2008
  - 16) 七海光『トルコの可憐な伝統レース イーネオヤ』雄鶏社, 2008
  - 17) 七海光『トルコの可憐な伝統レース トゥーオヤ』雄鶏社, 2008
  - 18) 日本マクラメ普及協会 (監)『やさしいプロセス 新・マクラメの本』雄鶏社, 2001
  - 19) 林ことみ『ビーズニッティング』文化出版局, 2002
  - 20) 丸山令子『マクラメ宅配便 あづみ野からのおくりもの第3便』ALPHA, 2009
  - 21) 水野久美子『ぜったい編めるジュエリークロスシェ教室』パッチワーク通信社, 2009
  - 22) 水野久美子『針と糸で編むビーズステッチ』パッチワーク通信社, 2005
  - 23) 山口好文, 今井啓子, 藤井郁子 (編)『新・実用服飾用語辞典』文化出版局, 2007
  - 24) 吉村誠一『ファッション大辞典』織研新聞社, 2010
  - 25) 『日本工業規格 編目記号』JIS L-0201-1995 財団法人日本規格協会, 1995
  - 26) 『プラスビーズ』, vol.1, NPO法人日米ビーズ協会, 2007
  - 27) Ann Benson, *Beaded Crochet Designs*, Chapelle Designers, USA, 2005
  - 28) Carol Wilcox Wells, *Creative bead weaving*, Lark Books, USA, 1998
  - 29) Carol Wilcox Wells, *The Art & Elegance of Beadweaving*, Lark Books, USA, 2003
  - 30) From the publisher of Beads&Button magazine, *Your seed bead style : accents, embellishments, adornments* Kalmbach Books, USA, 2010
  - 31) Julia Gerlach, *Peyote Stitch Beading Projects*, Kalmbach Books, USA, 2005
  - 32) Kalmbach Publishing Company, *Easy Bead Stitches Netting: 7 projectst* (Easy-Does-IT), USA, 2006
  - 33) Laura McCabe, *Creating crystal jewelry with Swarovski : 65 sparkling designs with crystal beads and stones* Creative Publishing international, USA, 2010
  - 34) TOHO BEADS<<http://www.toho-beads.co.jp>> 最終参照日2010年10月18日
  - 35) 財団法人 職業技能振興会<<http://www.shokugyou-ginou.org/jigyou.html>> 参照日2010年10月4日
  - 36) 財団法人日本余暇文化振興会<<http://www.yok-abunka.or.jp/>> 参照日2010年10月4日
  - 37) ジャパンビーズソサエティ <<http://www.bead-society.com/>> 参照日2010年10月4日
  - 38) 楽習フォーラム <http://www.gakusyu-forum.net/> 参照日2010年9月18日
  - 39) 日本アートアクセサリ協会<<http://www.jaaa.net/>> 参照日2010/10/04
  - 40) ビーズアクセサリー入門講座【ユーキャン】<[http://www.u-can.co.jp/course/data/in\\_html/184/special.html](http://www.u-can.co.jp/course/data/in_html/184/special.html)> 最終参照日2010年10月16日
  - 41) 株式会社 MIYUKI <<http://www.miyuki-beads.co.jp>> 最終参照日2010年10月18日